中山尚夫編

復讐奇話 天橋立

付、絵本身延山利生記

（十返舎一九集 8）

古典文庫

中山尚夫編

（十返舎一九集 8）

復讐奇談

付 絳本身延別生記

江苏业专学院图书馆藏
橋立文庫

古典文庫

古典文庫第六二五冊

平成十年十二月二十日印刷発行　非売品

立橋天語奇譚復
十返舎一九集　8

編者　中山尚夫
発行者　吉田幸一
印刷者　白橋印刷所
製本者　共伸舎

発行所　古典文庫
114
0024
東京都北区西ケ原三ノ三四ノ一二
電話　〇三（三九一〇）二七一七
振替口座〇〇一九〇-九-一四五九七番

© KOTEN BUNKO, 1998. Printed in Japan

目次

凡例……三
復讐奇語 天橋立 前編 上……五
復讐奇語 天橋立 前編 下……六五
復讐奇語 天橋立 後編 上……一二五
復讐奇語 天橋立 後編 下……一八一
復讐奇語 天橋立 三編……二四五
絵本身延山利生記 上……三〇九
身延山利生記 甲州鰍澤報讐 下……三六九

解説……中山尚夫…四七

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertong

凡　例

一、本書は十返舎一九の作品中から、読本『復讐奇語天橋立』（底本、古典文庫蔵）、同『身延山利生記甲州鰍澤報讐』（底本、同前）を全文翻刻した。なお、『甲州鰍澤報讐』は、上篇を後印改題本である『絵本身延山利生記』を用いた。

一、翻刻にあたっては、できる限り原分に忠実であることを心がけ

イ　宛字・誤字

ロ　仮名遣いの誤り・送り仮名の不足または余り・清濁

ハ　振り仮名・踊り字・割り書き・句読点

等はすべて底本のままとした。

一、漢字は原則として底本のままとしたが、現行活字にない異体文字は、正字に改めたものもある。

一、各作の序文、口上等は、原文には句読点はないが、適宜句点のみ施した。

一、底本の丁移りは、その丁の表および裏の末尾を示すことにし、数字表記は底

本の丁附けにしたがった。

一、原文には一篇中、文の途中での改行はほとんどないが、印刷の都合上、各丁裏の末尾で改行した。

一、挿絵・広告文もすべて底本のまま収めた。

平成九年七月

中山　尚夫

復讎奇語

天橋立

一

後雙

元燈高立

十返舍一九著

一陽齋豊國画

復讐

天橋立

十返舍一九著

一陽齋豊國画

（見返し）

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertong

復讐奇語　天橋立序

古語曰。凡而物に争ひて勝ハ。失の本にして。負るハ得の本なり。亦争ハずして負るハ大道なり。されや。此諍ひに。血氣と義理の二莖あり。義理にハ。却て従ひなびくの敵あり。血氣にハ。俱に身を打屠るの味方ありて。理を謬ることありとかや。今ハ昔。丹州永尾（序一オ）の侍臣。大見嵜飯貝の双士なるもの。性狼戻にして。其身を斃せしハ。血勇の甚敷に仍てなり。續て岩谷の藩中に。日下部某の災害ハ。義理に逼るよりおこり。終に天年を害ひ。其子俱に天を戴ざるの仇を報ふに。英士元伊勢山の大谷木が。同腹の功あることを編輯し。そハ同州の馴合観世音。霊（序一ウ）應の著明による

所以をあらハし。切渡文珠の。思案酒智恵の餅といへる。名物の濫觴を探り需て。頓に復讐天橋立の標題をかうふらしむ

東都

十返舎一九題

敬貞之印

（序二オ）

挿絵第一図（序二ウ・序三オ）

丹州天橋立圖（たんしうあまのはしだてのづ）

馴合観音　大皷濱

天のはし立　橋立明神

中禅寺　峯山　コトヒキ

岩谷ワタシ　福知山

温泉場所

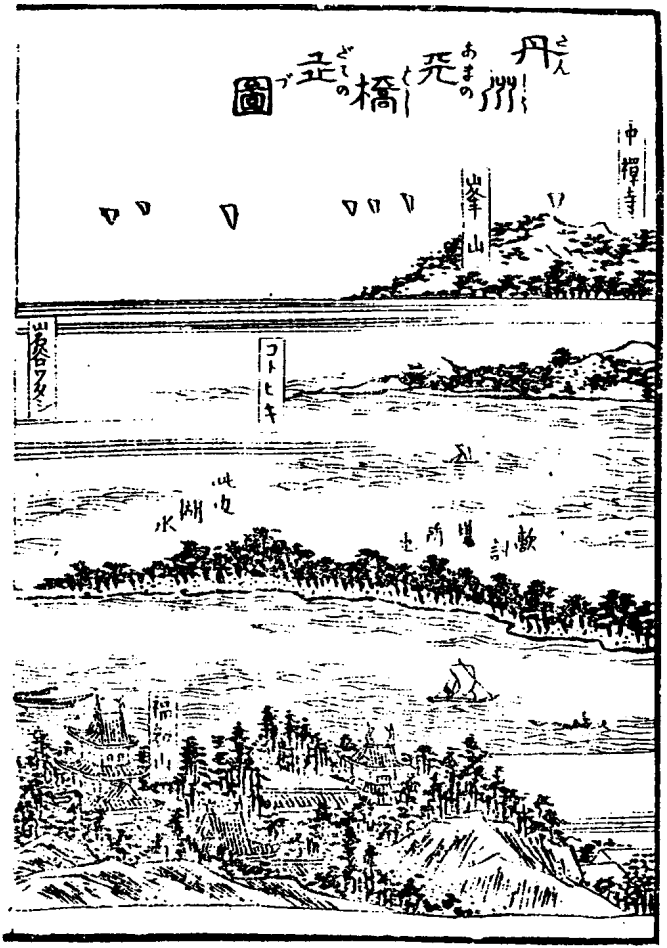
敵討場所也

此辺湖水

挿絵第二図（序三ウ・序四オ）

其二

挿絵第一図（序二ウ）



挿絵第一図（序三オ）

挿絵第二図（序三ウ）

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertong